

# フォレストニュース

植林が地球を救う

令和5年(2023)9月10日

No. 188

発行 高津啓洋

## レダ現地調査レポート2023

### 【緑の会のこれまでの活動】

環境問題の取り組みとして、地球の肺であるパンタナールの環境保護のため植樹活動をしてきました。

LEDAの地を中心として多くの方の支援をうけて、多くの種類の樹木を植樹してきました。インド産のニームがチャコ地方の植樹に適していることがわかり、チャコ地方のインディヘナの村々に街路樹を植えてきました。

### 【今の現状と課題】

オリンポの街の街路樹を始めとしてチャコ地方における植樹活動は画期的な取り組みで、政府からの関心も寄せられました。今後も奉仕隊を中心に取り組んでいきます。

LEDAの地の植樹においては2/3以上は育っているとはいえない現状です。

その理由として

- ・チャコ地方に適さない樹木を植樹した
- ・育樹まで手が回らない現状
- ・10年周期で起こる洪水などになります。

### 【今後の方向性】

引き続きパンタナールの環境保護を、チャコ地方の植樹、育樹活動のロールモデルをつくることで国家に示し環境保護運動を通じて国家に影響を与えていきます。そのために、

- ・1本1本の植樹する方法から、今まで植樹してきた植樹園を区画で分け、育てる樹を仕分けする。
- ・支援していただいた方の名簿を整理し区画ごとの支援者プレートを作成する。
- ・区画の植樹、育樹の方法は宮脇方式を取り入れ、マウントをつくりチャコ地方の樹木を中心に植樹をしていく。
- ・宮脇方式をパンタナールで実践していくために各支部において日本の植樹活動を活発化させ、実践経験を積み、LEDAにおける植樹、育樹活動を支えていく。



第一植樹園

### 船橋支部 活動報告

8月19日(土) 千葉県船橋市勤労市民センター第3会議室にて「森づくりセミナー」と「関東の潜在自然植生タブノキの苗をビニールポットへ植替え」を行ないました。

「森づくりセミナー」は高津先生の録画によるセミナーを観て頂きました。

今私たちの身近にある自然は昔からある森ではなく人為的干渉によって変えられてきた姿です。本来私たちの命を守るべき森なのに、花粉症を起し、土砂崩れ、動物たちが里に降りてくるなどの害が増えています。それは本来あるべき潜在自然植生の木を伐採し、人間の利益用の針葉樹・人間好みの観葉植物に替ってしまった結果です。土を押さえる深根・火災に強い照葉樹、それらを兼ね備えた常緑広葉樹シイ・タブ・カシノキを主木として構成する鎮守の森を宮脇方式で再生する方法を提案しました。

船橋も10年前は緑が多かったのですが、東京に近い便利な土地柄もあり、住

宅が増えました。急な斜面にあった樹木も伐採され、住宅が建ちました。

船橋中学校は生徒が増えたためか、立派な樹木が昨年伐採されました。土地の相続税対策もあって、畑もマンションやアパートに姿を替えています。

潜在自然植生のシイ・タブ・カシノキが私たちの命を守ることに役立っていることを知って頂いて、今回参加された中高生の皆さんが家族や友達に広めてもらえることを願っています。

すでにある常緑広葉樹は伐採されないよう、保護してもらえるように。海岸沿いの工場地帯の周りには植樹をし、湾岸道路の両脇にも常緑広葉樹を増やしていけるように願っています。

そのためにもタブの苗木をビニールポットに植え替えて、ご自宅に持って帰ってもらいました。3年育てると根がビニールポットの中にグルグル巻きに充満して、地面に植樹した時に育ちやすくなるからです。学生さんたちはタブノキを2本持って帰り、毎日水やりをしてくれることを約束してくれました。

